京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　桜久郎一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話　大三三番　振替口座京城四五六番
仁川宮町三丁目　電話二一一番　仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地　東京支局

●慶尚南北道農業觀察雜感（二）

揖斐生寄

○各郡の一斗落收穫は二石乃至三石を唱ふれども金海密陽靈山昌寧洛東江沿岸の地方は年々洪水の爲に收穫皆無の事多し尤も洪水なければ一斗落三石の收穫あれども平均すれば各郡の收穫は一石五斗內外なり今一斗落の地價四十圓にて（十五圓など言ふは數年前の地價なり）其小作料は八斗なり左すれば統計上の收穫は地方官吏質樸に提出したる迂遠なる統計たるを發見せり

○開拓事業の成績は不結果なるは論より證據にて統計上に於て農業は有望なるを誇大するも事實は不結果なり若し今日有利なりと云ふものあれば數年前に買占めたるものが有利なるものにて今日買收經營するものは左程の利あるものと思はず

○南海各郡を通じて金利の高きは金貸業の方有利なり其土地に永住の目的で金貸業をなせば食料に充つる位の土地は自然に手に入れらるものにて成効早し

◎內地人の僅少在留地方は○○の暴慢なるに驚き入たり鮮人に惡感情を惹起せしむる基因なるなり△△地方にて○○○員が鮮人が扇子を持ちたりとて叱咤鞭撻して酒手を强奪するを見たり職業婦と○○とが關係して同僚間競爭して肉慾上の爭ひが一般鮮人に惡影響を及して姦通事件が增加したりとの噂を聞てみたり

面及洞に關する舊慣制度（七）

（朝鮮總督府調査）

甲午以後に於ける面及洞（三）

第二項　職員の任免及職務權限

（一　法令の傳達　面長は法令の重要なるものは之を掲示し其謄本を各洞長に交付し之を掲示せしめ尙ほ其法令の趣旨を洞民に口達せしむ或は面長更に面內を巡回し洞民を集合し（開市日を利用し法令の趣旨其遵守方法を訓諭し事輕易にして掲示を要せざるものは洞長の口達に止む

掲示は別に掲示場の設けあるにあらずして市場其他の交通頻繁なる街衢に當る家屋の壁等に貼付す掲示文は國文を以てするは近時一般の例なるも諺文を以てせば更に有効なるべし

（二）租税及驛屯賭の納入告知及徴收　租税の徴收は納税徴收法制定以來公錢領收員の職務に屬するも多くは面長其職を兼ね又公錢領收員を置く處と雖も實際の徴收は面長及洞長之に當り其徴收金を公錢領收員に回付するもあり要するに租税の徴收は其手續區々に渉りて統一せず

（三）租税賦課標準の調査申告　土地の結數、烟草税、家屋税、酒税の調査申告にして土地の結數申告は土地の所在地目、地番、結價、土地の所有者及納税義務者（土地所有者と納税義務者とを別つは朝鮮にありては地主必ずしも納税義務者たらず小作人との契約に依り小作人に於て納税義務を負擔する慣習あるに由る）の住所氏名を記載したるものにして一に之を結數連名簿の調製と稱し主として納税義務者の申告に基き（實際は面長又は洞長之れを作製し納税義務者の捺印を求め面長に提出す）之を舊來の帳簿に對照し尙ほ實地に就て調査し其の當否を査定する面長の重大なる職務なり

結數連名簿は隆熙三年度に各地共完成したるも尙は不完全を免れざるを以て引續き調査査定中なりと云ふ其經費は一結に付三十錢を附加せしも本年度は各地共五六十錢を附加せしも得ざるべしと云ふ

雜録

●南山の國師堂（上）

野崎小蟹

天氣が陰鬱な日であつた

私は友と南山に嶮岨な處を撰んで、無理によぢ登つたと云ふ譯ではなかつたが、所謂友が路を忘れたので、汗をかいて喘然として頂上に至つて城壁の穴から龍山方面を眺めたのである、

次に四方を見廻した、山は嚴として聳ゆるのもある、中には老けたやうな意氣消沈したやうな山もある、京城の人家は奇麗に並んで見わる、何邊やらを芝居か活動寫眞かの音樂隊が練つて行くらしい、喧しい響音がして居た、彼響音は鮨屋の笛吹くやうにも聞きなされる、私の他に此南山に登つて茸を取る鮮人の組があつた、其鮮人が彼響音に調子を附けて手を振つて首を曲げて居るのが、五六間先に見えた、

私等は松の樹の間を潜り嶺を歩いて國師堂のある邊へと急いだ、

聽て二三軒の藁屋根の小家がある所を、登ると一宇の殿堂が目の前に現はれてる、うして騒々しい物の音が響いてる、鮮人の男が白衣の常服で面白さうに見物して居た、

私は友と殿內を覗いた、殿內には二組のミコが合奏して居る、一組の方は黑帽子を被むり緋衣を纏ふて、そしてマジナフ所の紫色の上着らしいものを大切に振廻して居たが、忽ちどり〳〵と裂いて、マジナヒをして貰ふ一團の頭上に、其衣を覆ふやうにして亦、大鼓の音や鉦の音に合して舞ひ續ける、片方の組は白巾を頭に被むり大扇を開いた儘、右手に持つて、鈴を左手に握りながら、大きな鼓の音と、ヂヤン〳〵の鈴を相鳴らして、喧囂な鐘の音と踊りはねて居る、後の方も年寄は

日本酒[illegible]限ル

五六十の女である、イモ顔なので些ミコの尊みが損じて居る、

私はスケッチ帳を懷中から出して、ミコを畫いて見た、始終踊りはねて居るから餘程すみやかに鉛筆を紙上に磨さなければならなかつた、

前に解いた、ミコは紫の衣を捨て一個のカバンを手に握つて、其口を開いて此中の金錢を誰が取つた、彼が盗みしと云ふやうな躰度をなして、マジナイをして貰ふ一團を見廻しながら、其顔相を觀察するらしく思はれた、

マジナワれた一團の者は、互に顔を見合した、其中に丈高き男の連合らしきに、ミコは迫めるやうに近寄つて、何か云ひながら白狀させようとした、女は面色を變へて首を振つて、彼方に居る白面の貴女らしい處女らしいのを罪もなさそうな可愛い顔した娘を指で何か呟いか、ミコは彼方に歩を移して亦强ひるやうに白狀させるやうな、手附をしたのであつたが、娘の母らしい者は首を左右に振つたそして惡い事は決して爲しそうもない擧動を見せた、ミコは直に此方の丈高き男に喰つて掛かるやうに、踊りはねて犯に服せよと云つた、

善惡を判斷して貰つて居るらしくあつた、

外事一束

△墺國　外務省曰く伊土兩國の希望を待たず伊がトリポリ占領戰干渉は早し

△米國　イリノイス州鐵道罷業者は民兵と衝突し負傷者出で民情恟然紛擾中

△ト國　合辦の瓦斯會社天津に設立するに決し資金百萬兩農商工部の登錄成

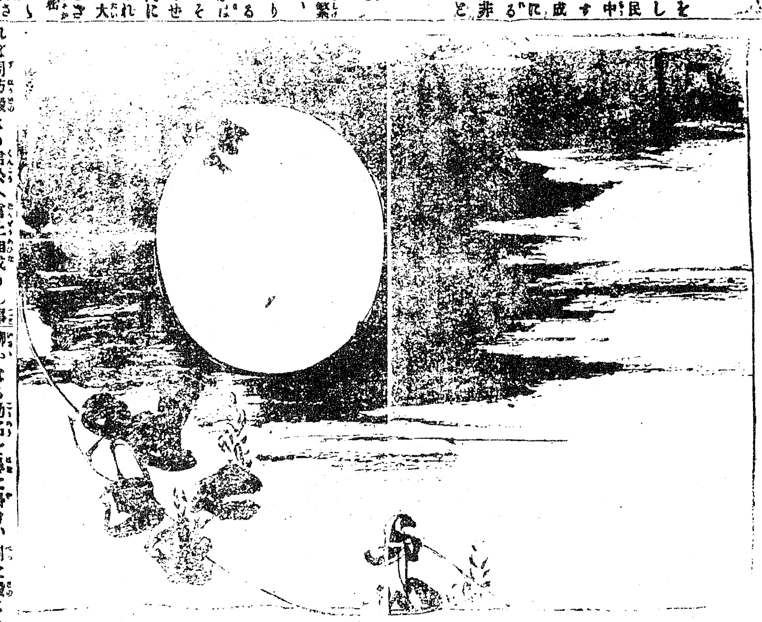
△濠洲　製陶磁器ペンチツトの蒐集に掛る物三百万圓にてレバー商會買入る

△伊國　チユリン博覽會の獨逸出品非常の好成績名譽賞牌四百個を得たりと

梁川庄八

第六回　小金井蘆洲演

此時末坐より進出たる梁川庄兵衛正繁　庄「恐ながら只今の御意を承りまして、取敢ず其當時の模樣是より言上仕ります、此事は疾に君の御聽に達しある事と存じましたに、只今の御詞を承はりますれば未だ御存じあらせざるこそ不審千萬に存じます　政「予は一向存ぜん如何なる次第か物語れ　庄「御下問に從ひ言上仕ります、只今君の仰せられました通り、其折は敵は眼に余る大軍、野となく山と云はず上杉勢ならざるはなく、衆寡敵し難きにより私密に謂へらく是は一時君の危きを捨て〻敵の本陣に斬込んで力戰なし、本陣さへ突崩せば先手の人數は引揚るは必定然すれば自然君の危きを救ひ奉り、聊か御休息あらせらる〻事も出來やうと存じ、部下の兵二百人を纏めて、先づ敵の先衛の備へ、神保直江鐵北條中條一手八百人つ〻の五段の固めを討破りに生殘りましたる、兵士百人計を率ゐました、時將に日の暮ましたるを幸ひて、上杉景勝の郡山の本陣へ小荷駄隊から、ムラ〳〵掛に斬込んで、當るを幸ひ突立て薙立て縱橫無盡に斬捲りました、勝誇りましたる敵の本陣元分油斷の折から逆、其周章狼狽の有樣實に一方では御坐りませんでした、に引揚の下知を下し、先手の兵を引揚げましたのに御坐います、其時私部下の兵は討たれて、二百人は百人となり百人が半ば討たれて漸々殘りましたは四五十人、敵が總勢引揚、跡には余程慌てた者と見へまして、竹に雀の旗六本を置忘れて參りました故、是屈强の獲者が分捕ました、福島城まで引揚げ參りましたは、既に夜も三更の頃で御坐りました、其時は君最早福島城中に御休息あらせられ、大手先には藻庭周防殿陣を張て居られましたにより、右の次第を具に物語り分捕たる旗を君へ御取次を賴み差上げて置きました、然れば周防殿より君公へ言上相成りし事と思居りましたるに、只今の御意……恐ながら景勝が俄に引揚げましたる次第は、斯の通りに御坐ります、謙信以來、弓矢の戰に未だ一度も名汚れ致さぬ景勝が、旗を置忘れましたるは上杉家の名折れ、御當家の御譽と心得まする、是偏に君の御武運の强に依る如て存じ奉ります」と滔々として申上た、政宗侯大に驚かれ　政「予は一向存ぜんで有た、其方物語にて始めて承知致した夫程の手柄功名を何故陣中日記に認めなかりしか、早速當時の軍監軍目付角の目小太郎渡邊番藏を呼べ、予が糺問致すであらう」と敷團荒く仰せられた折柄れ次の間より　周「アイヤ暫く」と聲を顯けた者がある　政「何者ぞ」と振返られる途端、襖を開いて立出るは藻庭周防正智、御前に席を設け　周「恐ながら伺ひ奉ります、手前只今御次の間に控へ居りましたるが、何か梁川庄兵衛より申上げましたる樣承りましたが何事なるか仰聞けられますやう　政「オ〻只今庄兵衛より去年九月廿三日松川の戰の模樣を承はつたのぢや、其儀に付角の目小太郎渡邊番藏兩人を呼んで陣中日記につき不審の件を相尋ねやうと存ずるのぢや」此時藻庭周防庄兵衛を確と睨んで　周「如何に庄兵衛其方は聊かなる功名を鼻に掛け、別に殿より御尋も無之に自から進んで勝手を事を上申致すは潜越の振舞と申者だ、若し戰場の事につき主君に伺奉らんかならば、何故我々の手を經て君の御聽に達し入ざるぞ、自から斯る事を言上に及ぶは、第一御家の成規に戾る、內訴は御家の法度なるに、然るに殿の御前を顧みず內訴に及ぶとは近頃不屆千萬……作　政「君へ申上ます、御家の法度に背いた言上、陣中日記の儀は御取審には及ばぬ事でござります……庄兵衛其許は戰場に於ける聊かなる、働振りを鼻に掛けるとは何事なるぞ、其身が平素妻子眷族を養ひ榮耀に日を送るは皆のれ禄ぢや、主君のれ爲めであろう然れば戰場に於ては粉骨碎身するは、其身の分とする所又我々とても同じ事、身命を棄てゝ君の御恩に酬ひ奉るは武士の本領とする所であろう……狼狽者め控へてたろうぞ」老臣の權威を笠に大喝一聲、庄兵衛に壓迫を加へて、瞞着を仕樣とした、律儀で豪放磊落なる庄兵衛いかで此壓迫に屈せんや、勃然として憤りを顯はし藻庭の方を礑と睨んだ眼光烱々として怒髮天を衝くと云ふ有樣。



外國特電

●伊土戰爭問題●●●

伊占領地戒嚴令 伊太利の占領地トリポリー市に於ける知事は同市に戒嚴令を布けり土軍は同市より五哩隔たる地に砲壘を築きたるも籠城の結局降伏の已むなきに至るべし（倫敦發）

伊軍土領を占領 伊太利軍は土耳古のバルカ、ドブルクを占領せり（倫敦發）

土國の關税引上 土耳古は閣議の結果伊太利の商品に對し關税を百パーセント引き上ぐることに決定し伊太利人に退去を命じたり（伯林發）

東京電報

▲伊政府の宣言 伊國政府は四日付を以て戰時禁制品及土耳古商船捕拿の件に保する旨宣言せりと

▲露國中立宣言 伊土開戰に對し態度不明なりし露西亞及諸國は中立を宣言したり林大使より公電ありたり

▲海軍擴張世論 海軍擴張案に對し世論一般に海軍に誠意なしとて非難し居れり

▲土耳古と露國 土耳古政府は時局に關し露國政府に密使を發したるの形跡あり

▲モロッコ問題と佛國 モロッコ問題に關し佛國は遂に獨逸に屈伏せんとする狀勢あり

▲日葡條約改正 日葡條約は暫定協約に依り通商關係を維持しつゝ葡國よりの提案に對する外務省の調査は既に終了し修正意見を全部完成し居れるが葡國は例の革命騷ぎにて交渉の機會なく新政府承認の今日に於ても無條約國の關係にありて可成速かに談判開始の必要あり外務省よりは既に荒川公使に訓電し置きたるに依り同日荒川公使近々リスボンに於て談判開始する筈なり

▲救恤金御下賜 長き渉りて九月初旬朝鮮各地に於ける暴風雨被害を聞し召され十日救恤金五千七百圓を御下賜相成りたり

▲鮮米代用問題 農商務省にては今夏米價高騰の實情に鑑み過般各地方長官に宛て端境期に於て臺鮮米代用の議を議會したるに東京米穀商品取引所にては極めて躊躇なる理由の基に公然反對しつゝあるは既報の如くなり然るに臺鮮米代用の實行と否は米價調節の上に關係を有するのみならず臺鮮南地に於ける產業政策とも密接の關係を有する事とて今回臺灣總督府は農商務に對し臺灣米は品質漸次改良の實を擧げ今や內地產米以上の良米を產するに至りたる現狀にして代用認可の指令あらんことを旨を申し來り更に朝鮮商業會議所よりも鮮米代用は朝鮮產業發達上必要の旨朝鮮總督府に陳情せしに付農商務省當局者は朝鮮臺灣兩總督府と之れに同じ充分なる討究を遂げたる上何れかに決定するに至るべしと

▲新年御歌勅題 新年宮中御歌勅題は既に內覽に供せるが今月末迄發表の筈なり

▲內務省の豫算 內務省に於ける明年度豫算の再調查は既に編成を了へ再び原內相の手元に提出したるが來る十四日迄には省內會議を了し大藏省に廻送す可し

▲港灣整理方針 內務省にては港灣整理之爲め特別會計を設け其完成を期すべく過般の港灣調查會に諮問する筈なりしも我國現今に於ける財政狀態にては到底不可なるを慮り鹽釜、靑森、四日市、舟川等の諸港に付き相當の國庫補助を行ふに內定し目下其設計に就き取急ぎ取調を爲し居れり

▲吉林巡警暴行 吉林に於て清國巡警突然我藥店に臨檢し店主を拘引せしかば我領事の抗議となり店主は釋放されしも尚談判中なり

▲東宮海軍演習行啓 來る十五日より行はるゝ海軍演習に東宮殿下行啓あらせらるへしとの說あり

雜報

●殖民地豫算查定

大藏省及拓殖局にては各殖民地より提出の豫算は目下大体に就て協議中に屬する者多く修正を見るる方針にて單に臺灣樺太關東州朝鮮に於ける一般の經費は種目に非常の差異ある場合を限り之等の統一を計るが爲め多少增減することあるべしと云ふ

●安奉線時間改正

安奉線改築工事は愈々豫期の通り本月中に滯りなく竣成し十一月三日より同線全部の直通を見るべく其發着時間は左記の如くにして急行列車は朝鮮鐵道連絡直通列車運轉の上ならでは運轉を開始せずといふ此列車到達時間を從來の舊線時刻と對照するに其最も速き列車即ち奉天午前三時半發安東縣午後五時半着にて十三時間を要せしもの直通後は普通旅客列車にて約六時間にて到着し得從來の半分に短縮されたり右の結果在來の福鷄冠山、荒地嶺、二道溝、大房嶺、春秋木莊、林家台、金家、金坑、の八驛は閉鎖せらるべしと

▲上り列車

驛名	急行旅客	混合	同
奉天發	前五、三〇	前九、〇〇	後〇、三〇 ……
鷄冠山着	……	後八、三五發	前八、〇〇
安東縣着	後〇、一〇	後五、三〇	…… 前二、〇〇

▲下り列車

驛名	急行旅客	混合	同
安東縣發	前八、五〇	前九、〇〇	後三、〇〇 ……
鷄冠山發	……	後六、二〇發	前六、五〇
奉天着	後三、三〇	後六、一〇	…… 着後三、三〇

●學校林の奬勵

朝鮮公私立學校に學校林を設け生徒を指導して植樹栽培を自らせしむるは生徒をして森林愛護の思想を涵養し兼ねて勤勞の習慣を養成し敎育の效果をして顯著ならしむると共に久しく荒廢に委せられたる森林の回復を速かならしめ一面學校基本財產の一助たらしむるを以て總督府にては豫て之れが設營を獎勵しつゝありしが今回更に獎勵の意味を以て各道長官に宛て左記の事項を通達したりといふ

一、普通學校及之れと同等程度と認むべき學校に任りては生徒一人に付一個年約十本宛を植栽すること

一、中等程度の學校に任りては生徒一人に付一個年約二十本宛を植栽すること

一、植栽地の面積は苗木一本に付約一坪の割合を以て算出し事業繼續年限に應じて積算すること

一、可成五個年以上輪伐期以內の繼續事業と爲すこと但し實力に伴はざる過大の計畫を避くること

●三井の山林事業

三井にては過般山林課長柴田林學士來鮮し林業、村鮮細調查の結果四五日前三井は總督府に對し京畿道を中心として約八萬町步の國有山林貸下の願書を提出せり

●穀税撤廢運動

朝鮮米輸出移出税撤廢問題は內鮮穀物商間の宿題にして年々帝國議會開會中には在鮮會議所聯合會より委員を東上せしめて運動し來れるが今年は十二月東京に於て全國商業會議所大聯合會の開かるゝを機とし在鮮會議所聯合會より委員の出席するもの數名あるを以て引續き渡京して移出税撤廢の爲めに盡力すべしと云ふ

●水產傳習所開設

江原道にては恩賜金利子を以て管內江陵郡新里面注文津に水產傳習所を設置することゝし過般來道技手出張し目下開設準備中なるが傳習生としては漁夫其他斯業經驗家の子弟に就き一郡より五名宛を採拔する筈なりと

●定例長官會議

十日午前十時より總督府に於て定例長官會議を開き寺內總督山縣政務總監臨席各部長官列席されたり

●九月中の京城出入品

九月中京城税關出張所に於て取扱ひたる出入重要品目及價格左の如し（單位圓）

輸出及移出品の部

品目	價格
牛皮	四七四一
其他諸品	六四七二
合計	一一二一三

輸入及移入品部

品目	價格
小麥粉	一三八三一
鹹魚	八二〇
砂糖	一三八七二
麥酒	八九五〇
蠟燭	四四一
綿糸	二四四五六
晒金巾	二六九五六
綿縮子	七八三
麻布	二六九
絹布	二〇四二五
靴及履物	六二九五
諸文具	九二三五
熟鐵	三三六八
鑛鍋釜	九九四
煙草	二八一
木材板	七九三
木製品	一五二九
小包郵便	一三三二三
果實類	二四一三
罐詰食物	二七〇一
清酒	一六三六九
其他酒類	一九〇〇
繰綿打綿	四四〇九
金巾類	一三〇〇三
天竺布	二三三
日本木綿	二七三六二
毛織物	二四七〇四
交織布	六四二〇
紙類	四三一八
書籍雜誌	五九三八
鐵管	四〇一
機械類	八六一四
陶磁器	二四四六
家具	三九八八
洋傘	三二〇〇
其他諸品	二四九七六九
合計	七九四七〇五

民團税制調查案(三)

民會議員 中島司馬之助氏談

税制調査會は議論百出して歸着する所を知らざる有樣なりしを以て各人の意見は之を書面又は口頭にて民長手許に提出する事として該會は一時閉鎖したるが其後民長より吏員を派して意見を聽取すべき旨申越ありたるも今に其儘にて實際は余の意見は未だ提出されざる次第なり借實問に應じて一通り余の意見を述べんに總体論としては所得單一税を理想とするものなり納税者側より見たる租税は凡て納税力に適應するを最も可とし此點に於て所得税は最も之に適應するものなるを以て余は所得税を主要なる税となさん事を希望するものなり而して之が補足として營業税土地税、戶別割、雜種税を加へ建物税の如き重複の嫌あるものや其他繁雜なる税種を設くるは余の希望する所にあらず次に各論として所得税は實施上困難にして又精確を缺くとの批難あれども申告法に由つて虛僞なりと認むるものは吏員を派して調査せしめ又申告せるものは民長又は委員會の決定に委する事とせば左迄不都合なかるべく日本にて現に施行し居るものなれば企て謂はざる事なかるべし土地税は京城の如きは其騰落甚しく一例を上げんに黃金町の如きは昨年は坪二十圓乃至二十五圓位のもの今年は五十圓乃至六十圓の相場にて花園町も二圓乃至五圓位のもの同じく十圓十四五圓を往來し又本町通も若し總督府にして景福宮に移轉せられなば俄然地價暴落を來すべし故に可成負擔を輕微にして地價半額を標準にするを可なりとすべし税率は千分の十五現在にて可ならん戶數割は從來議員民長の認定に依りて民團收入の大部分をなし居りしが余の考ふる所は之を賃貸價格に基きて輕微に課するを宜しとす元來此税は徵税容易にして收入確的なる故草創の際之に據りしは已むを得ざる事情ありたらんも今仔細に其內容に就て考ふるに家賃と所得とは必ずしも一致せずして貧乏者の子澤山のあり又余貸の如く小屋に住つて收入の多大なるものあり某氏の如く之を主要なる民團收入の一となすは反對なり此際改良せん事を希望す建物税は自然家賃を高め一方細民を苦しむると同時に一方市街宅地の如き土地税の税源たる家賃收入と重複し所謂重複税をなすものにして余の排斥する所なり營業税は成一部には其廢止を唱ふるあるも一面より見れば營業者が道路使用其他に於て民團の恩惠を享くる事大なれば勞々之を維持すべし雜種税に就ては多く意見なし唯營業税の一部と見て可なり

●諏訪神社分祠

在京城長崎縣人一同は長崎市にある諏訪神社の分祠を設けんとの計畫あり分靈は此の程到着したるが右分祠の場所は南山公園を撰定し昨今土地貸下方を民長に交涉中なるが民長も此の擧を賛し極力奔走しをれりといふ

●商工調査會延期

京城日本人商業會議所內商工調査會は同會規定に據り毎月十日開會の所深水會議所副會頭旅行不在中に就開會を延期せしが同査囑託員中に提出の問題あらば此際會議所迄提出し置かれたしとの事なり

●仁川第八回民會

巳報の如く仁川第八回民會は九日午後六時半民團樓上に於て開催出席議員十名にして議案は四十三年度決算報告にして異議なく通過し尙税金滯納者處分に付ては凡て新聞に公告する事に決し同十一時閉會せり

●昌德宮の午餐會

昌德宮李王殿下には十日伺候したる寺內總督及山縣政務總監、上田軍司令官、松永第二師團長、明石司令官、上泉司令官、外波少將、國分人事局長、中山大佐、栗原秘書官、藤波通譯官、藤田大尉を召され午餐の饗應ありたり

●朝鮮古書豫約募集

朝鮮雜誌社經營の朝鮮古書刊行會にては十月末にて豫定の通り第一期刊行を完結し十一月より引きつゞき第二期刊行に着手するを以て第二期豫約申込は十月三十日限りとの事なり

●練習艦津輕入港

海軍機關候補生六十餘名及清國依託學生二十三名を乘せたる練習艦津輕は十日午後鎭海灣より仁川に入港したるが同艦は來る十八日迄碇泊京仁の各名所を見學の上大連に向出發すべしと

●總督の練習艦員招待

寺內總督は十日午前十一時半より別項仁川入港の練習艦千阪津輕艦長以下ト長官五名並に練習生四名（日二、支二）を總督官邸に招待し午餐の饗應ある筈なり

●練習生一同に午餐

寺內總督は十一日正午津輕乘組海軍機關候補生並に清國委托學生百余名を京城ホテルに招待し午餐を饗應すと

●清國領事津輕艦員招待

當地駐在清國總領事は十一日午後六時より千阪艦長以下乘組將校五名を招待し晩餐會十二日仁川俱樂部にて清練習生全部を招待し晩餐の饗應ある由

●シリーア博士入京

米國シカゴ大學教授シリーア博士は九日午後八時十分水原より入京せり

●高麗古都雜觀(一)

附紅蔘製造の參觀 スイロー生

本月六日我春秋會の同人等は大擧以て開城に遊ぶ筈であつた、生憎にも朝來の曇天、士氣聊か沮喪し、同日正午の平壤行に乘つたのは大阪朝日の岡野君時事新報の横尾君及び本社水浪の三人のみであつた、車中僅かに三時間、何事の有らうべき筈もなく、同乘者城數馬君の餘念なき說明に敬意を表しつゝ開城驛に着き、蔘政局の富家技師其他の出迎を受け、下車直ちに車を驅つて蔘政局に到る。言ふもオロか、開城は人蔘の都、此所に來つて、紅蔘の製造を見ざるは、恰かも寶の山に入て寶を握らざるに同じ、サレばこそ一行は無遠慮ながら、多忙なる富家技師に乞ひ水蔘收納の狀況及び紅蔘製造の狀況を仔細に見物した。

まづ第一に水蔘收納所に到れば、茲には、三十餘の鮮人蔘圃より來れる大小水蔘の擇分けに從事す、聞く此日の收納品は瑞興郡松田洞孔聖學外有蔘圃の產にして、專門家の語を藉りて云へば何れも五片物、乃ち五本を以て一斤となるもの、當の消費者支那人に見すれば彼等の垂涎措かざるものであつた、富家技師曰く、當期孔聖學所有の蔘圃一町步の收獲五千貫目餘、而して與へらるゝ賣收金は實に四萬圓と。一鮮人も斂れや過去五ヶ年間に彼の一町步の蔘圃に費せしところ一萬圓、而して今日收納所に來つて受けたるところ四萬圓、差引乃ち三万圓の純益を得、ア一萬圓を投じて三万圓の純益を得、宜なり、今や水蔘栽培の有利が鮮人間に知れ渡れるを、彼の栽培者に金銀盃を與ふる奬勵法の如き今日に於てはモハヤ其要を認めざるに至る。

收納所より轉じて洗場を見、蒸場に至れば茲には數個の蒸釜ありて當日の收納品を蒸し居る、一鮮人あり齡七十二名を李賓文と稱す、彼れ水蔘蒸に從事すること過去四十年余、今は一期六十圓の報酬を得て當蒸場の監督に任す。彼れや時計を頼らず只た蒸釜より洩るゝ蒸氣の香を臭ぎ、以て釜中水蔘の蒸せたるや否やを判ず、アー經驗や熟練や恐ろしとも恐ろし、李や實に蔘聖の敬稱に値ひす。蒸釜室を出て乾燥室を覗けば茲には例の五片物籠中に臥列すソツト一本なぞと考へても無益、出口には憲兵巡査の居りて嚴重に被服の檢査を爲すあり。更に歩を轉じ苗圃を一巡し、中にも珍らしき電氣栽培の試驗を實見し、黃昏導かれて蔘政事務所に入る。茲にて名物蔘湯に渇を醫し、卓上の來賓簿を開けば、冒頭に肝きしは紅蔘染筆者の代表者濟國總領事馬廷亮君の染筆「天然妙品」なる四題字。偶然ながら蔘政局の裏書をなした。

●東京朝日又々押收

十月七日發行東京朝日新聞第九千四十一號又々押收されたり

●朝鮮偉勳錄

本書は當地操觚界の古參者此經奉也氏の著にして收むるところ日韓史績の大觀統監政治の成績朝鮮併合の偉勳等十一章一讀人をして日韓併合の經過を明かならしむ只惜しむ卷首揭ぐるところの寫眞肖像寺內伯を前にして故伊藤公を後にしたるを而かも之れ本書の瑕瑾たるに過ぎざるもの決して著者の心事と云爲するに足らず（發行所文林堂定價金四十錢）

●江陵測候所準備

今回新設の江原道江陵測候所に於ては客月十六日技手着任し目下建物修繕中なるが不日開始すべしと

●島重治氏の出發

島重治氏は航路標識管理所長を辭し內務省技師に任ぜられたるにより十二日午前八時五分仁川發列車にて出發東上すべく因に赴任後は信濃川改修工事に從事すべしと

●鹿兒島農林生下仁

鹿兒島縣農林學校牛徒二十余名は九日午後一時四十分仁川に赴き市中を視察し仁川民團にて茶菓の饗應及繪葉書の贈與を受け即日歸京せり

●岡野養天子の發期

大阪朝日新聞特派員岡野氏は十三日午前九時南大門驛出發歸阪す

●金杯木杯謝狀贈與

仁川民團役所にては去明治二十八年より民會議員及び議長の要職にありし奥田貞次郎氏に金杯を贈與し當四年間議員の職にありし桑野良太郎氏に木杯加來榮太郎氏に謝狀を贈與せりといふ

●果樹芽接法の實習

朝鮮農會開城支會にては九月九日より十四日迄開城長湍二郡の篤志家十八名に對し果樹芽接法の實習を行ひたるが成績頗る良好なりしと

●鮮人判任文官合格者

過般各道廳に於て行ひたる鮮人判任文官試驗の成績決定し各合格者九十四名は九日の官報を以て發表されたり

●釜山蔚山間航路開始

釜山商船組は汽船春川丸を以て客月二十二日より釜山蔚山間の航海を開始せり

公人私人

▲高見技師（滋賀縣技師） 十九日入京浦尾へ

▲京城手形交換高▼

日	金高	枚數
十月十日	二八九、一三四、九二〇	六九一

▲茶袋▼

萬國議員會議の委員會では今回の伊土兩國の交戰問題について伊國の行動は平和と正義とに對する尊重を缺いだものであると決議したさうな、併し伊國今回の擧を誘致したのは獨逸のアガヂール占領が基となつて居る事は識者の認むる所である、然れば萬國議員會議で其誘致者の罪を不問に附し、獨り伊國のみを云爲するは、これ亦少しく穩當を缺いでをらぬか▲農商務省が當然の責務として解決を與へねばならぬ問題中最も主なるものは朝鮮米課税廢止の件、朝鮮臺灣米受渡代用の件等にして、此二つのものは共にこれ米價問題と離る可からざるものである▲米價問題は一日を緩ふすれば一日生民の苦樂に關係する、余輩は此點に就て牧野新農相の手腕を驗せんと欲す▲殊に朝鮮臺灣米代用問題に付ては取引所側から一切自己の立場即ち取引所の利益のみを打算し、殆んど荒唐無稽の說をも並べて農相の手許に出して居る、新農相が此等の說に動かさるゝなくんば幸甚▲臺灣總督府からも農商務省に抗議を申込んだ、朝鮮總督府も默つて居る譯にはゆくまい▲深水副會頭がそらぬからとて商工調査會の開期が延ばされた、之を見ても會議所會頭を決定せねば何かに付て不便な事が判るではないか。

チャンピオン傳(三)



青木堂主人 久保田金次郎君

何にでも能く引き合ひに出る本町一丁目の青木堂主人久保田金次郎君、品行の方では大に感服仕らぬが稼業に熱心なる事多く其比を見ない名高い**精勤家**で三度の食事も滿足に座つて喫べた事がないと云ふ、例の階上の商を初めてからは其多忙しさは又一層である、併し商人が稼業に出精するのは正しき意味から云へば當然であるが敢て珍とするに足らぬのみか既に汎く知れ亘つて居る然らば井門の政子**仕込の常盤津か端歌**で紹介しようか夫れはチャンピオンには甚だ縫い、然らば色男として行かうか、併し此色男たるや金が有つての色男であるから甚で心細い次第だが敵の内だから稀には何とか思つて居たのもあつた彼の清華亭の政菊の如きは夫れだが當時では手が切れて居るから駄目である、然らば長ッ尻と云ふ極めて野暮な所で行かうか併し是は他に君より以上傑出した人のあるわけだ然らば商業學校の在學當時から優等を占めたと云ふ…現も外國に注文發送狀は之れに依ると云ふ**タイプライター使用**として行かうか、君は常に云ふ此ならば大抵の人には負けないと、併し夫は競爭の相手が無いからだらうと云ふのは惡口屋の惡口で實際は達者のものだが夫より更に振つて居て誰にも負けない隱し藝がある、夫れは即ち**玉突き**で幼少の頃よりの大好物で隨分奮い突手であるが技は一向に進まない拙いとも拙いとも拙手の司令官何にして**二十年の昔から依然**として**百に對して二十**より多くは突けないと云ふ情無さ加減の數か知れないのだ、デも好きで止められないで例々巴洲亭の玉臺の前に棒を握つて立つ、多年の功は爭へないもので棒を握つて立つた姿勢は頗る佳い七百位の巧手の樣に見えるのが結局仇となつて君の拙さ加減を知らない人達に敢を挑まれると横好の虫が頭を擡げて敵手の誰たるを問はず應戰する、スルト前陣の如き入拙手なんだが敵手は斯樣思はない「巫山戯ないで一つれ手並を」と來る、此時にモウ青木堂君は何も眩んで居るので**コツンと行る**と夫れは**敵手に持玉だ**、餘りの失敗に頭を抱へて逃げ出した足を料亭に向けて此所へウンと腰を下して午前三時迄は貧乏揺ぎもしない、仲居や藝妓は君の顏を見るとウンザリすると云つて居るから此方も相當であるに相違はない(完)

●龜鶴樓 奴の較替魂膽

▽馬鹿を見たは樓主

新町遊廓龜鶴樓の抱れ職、女郎奴(二三)が四五日前親許身受けとなりしに就て必ずや裏面に魂膽あるべしと入れた探鈎に引掛つた事情と云ふは先頃より同妓の許に京城日報記者と稱し足繁く通ひ來る村上友太郎と云ふ人あり來る程に通ふ程に遂には奴も憎からず思ひ初めては總督さんとでも膝詰の御話が出來る御用記者とも云ふも嬉しく年が明けたら村上令夫人と成らう爲ように相談も整ひて後は勤め氣放れて待遇程に月の二十五日間は奴の部屋に同人の姿を見ることになつたりける程にさる程に初めの間こそ御勘定もチャン〳〵と下つたれ中頃よりは此の次に一緒にとの御言葉御用記者とあるに樓主の方でも謹で百二十圓迄は貸し申したが夫れから上は流石にイヤ〳〵とのみも言つて居られず此れ以上は相濟みませんがと斷を云ふと敵妓の奴と仲居のお花が内證へ罷り出で假令身を沈めても引き受けますからと云ふに又候承つた金額は百十八圓五十錢合計**二百三十八圓五十錢**となつたので棄ても置けず、ト云つて當人に話をしても一向埒が開かないので日報社の會計へ罷り出で恐る〳〵右の事情を開陳して御社の御威光を以て何とか日與の付く樣にと嘆願に及んだる所會計では寐耳に水の沙汰なれば一度は大に驚きたれど元より取上ぐべき筋のものならねば双方合意の上解決すべしと突き放されたるに今は掛合ふ人も當に對し嚴談を持ち込みたるに村上も流石に恐縮し一金二百三十八圓五十錢の**借用證書を京城日報記者村上友太郎**名義で**龜鶴樓主宛差入れ**一先落着せしが京日社にては棄て置けず**斷然解雇**と決したる由を聞き付けたる龜鶴にては今解雇されては元も子も無くなる次第なれば何とか穩便の御沙汰もと泣を入れたるも聽かれざるのみか同人は記者にはあらで京城日報整版部取締とさへ判明したるに又候開いた口が閉がらず悄々引取つて間もなく奴は親許から母病氣との電報が來るに次には親類の者と云ふが渡鮮して前借金も値切り倒して同人を歸鄕せしに間もなく仲居のお花も姿を見せずなりたれば龜鶴樓は例の證書一本を二百三十八圓五十錢の抵當に大切に手文庫の底に藏つて居る然るに一方郷里に歸つて病母の枕元に藥でも煎じて居る筈の奴は仁川敷島の第二敷島へお花共現はれたる事此程に至り分明せしにぞ龜鶴樓では扱は一杯食はされたかと口惜しがつて居るが其黒幕は云ふ迄もなく村上なるべしと新町邊での噂とり〳〵

●岡野告天子文之助

先生の前に平伏す

岡野告天子を云へば大阪朝日の特派記者であることは隱れもない事實である、其告天子今度本社詰となつて歸坂せらるゝに就ては凡帆面な岡子の事とて交際のあつた向へ一々拜趨れ暇乞を申して居る、去る八日も或る所へ出掛けた名刺丈け置いて歸る心算で有つたが止め巧手に止められて酒になると間もなく其座へスル〳〵と現はれ「れ出なさいまし」と叮嚀に挨拶する婦人がある「飛んだ御手數を」と禮を返す、其内に主人も告天子も耳熱して御得意の謠の一番となると告天子も必定夫人と思ひ込んで居た婦人は小手調鮮かに鼓を入れる、興に乘じて七八番を唸つてイザ立際になると告天子チャンと洋服の膝を折り婦人の前に兩手を突いて「お蔭をもちまして近來にない清興を盡しました、失禮も御座いましたらうがお許しを……」ウーヘエーッ、馬鹿知らん、右の婦人は藝妓菊家の御大文之助先生

●堀對佐藤事件落着

▽堀力太郎氏大に折れる

堀力太郎對佐藤久雄の訴訟事件は其後原告の親權者敬雄死亡したるを以て敬雄の弟佐藤巖は之れが圓滿なる解決を希望し最も厚意的に堀氏に交渉する處あり殊に森常吉氏の斡旋により九日和解判決を見るに至り法廷に於ける和解調書に記名捺印されたり重なる條件は原告佐藤久雄を堀家の養子とし法定家督相續人として故敬雄の妻ちかの所有衣類物品等此見積價格金二千圓也及別四十號地に於ける家屋一棟同家賃三百八十五圓は被告に於て返還及支拂ふ事と其他の條件は原告より取下げ一先づ落着を告げたる次第なりと

●龍山合同 各學校運動會

十一、十二日龍山青坡元監獄敷地内に於て龍山面各學校生徒の運動會あり午前十時擧行の筈なり

●旦那さんは無關係

岐阜縣不破郡宮佐村生れ西川すて(二三)が京城券花家席より小萬と名乘り今晩は御贔負にと現はれた此の妓は旭町三丁目開進亭にて小萬と名乘つて居たが本年六月中旬某憲兵將校に落籍され明町に圍れたるが事情あつて手を切り一應内地に歸還したけど京城が懷かしくて又々渡鮮目前で現はれた旦那とは何も關係はありませんぞと問はぬ事迄掛官に辯解して居た

●胃癌に特効

胃癌は不治の病なりと肺病より恐るゝ病なるも今回東京四谷區麹町十一丁目中尾藤久堂にて發賣する外用練藥晃煉は胃癌、肋膜炎、盲腸炎、子宮病等に奇効を奏すると現に名醫に見放されたる胃癌か晃煉に依り健康体に復せし者ありと新る靈藥の出現せしは同病者の爲め悅ぶべき福音なり同病に惱む人は同店に照會すれば詳細なる實驗說明書を無代にて送ると

●仁川敷島の新妓

同第一敷島にては新妓數名を輸入したる由なり

●演藝だより

▲壽座 好人氣なる後藤良介一行十一日十二日の兩日の代狂言に今夏東京にて高田、河合の大一座が上場して大喝采を博したる小島孤舟作「時雨日記」梗概を全十場を上場す重なる役割左の如し 金井健作(後藤)塚本芳之助(藤野)藝妓小つた(松下)洋ハルイズ(藤田)友人神原(雪岡)健作母れとみ(深津)吉宮晴文(内田)藝妓千代香(北子)

▲浪花館 吉川冬勝一行打揚げ後十二日より馴染のジョンベール、笑福亭福圓一行の娘奇術太神樂落語音曲手踊等にて開演すべしと

▲御成座 片岡鶴之助一座の浪花節芝居にして毎夜大入好人氣なりと云ふ

●新町高野山別院の十月五日午後四時三十分(四)

白面子

有の儘に白狀するが此の白面子は未だ妻を持つ程の身分でないから無妻〳〵の者だもの姙娠する筈がない從つて分娩する筈もない而して夫れが確に僕の子であつて加かも男兒であると云ふ譯がないのだ又從つて無い妻が病氣する筈もないので勿体ないが頂いた**れ砂**を飲ませるにも及ばないから**大切に保存**することにした、襦袢を貰ひに行く事に約束がしてある五日の午後四時十五分、夫れを受取るべく再び高野山を訪れた、申し忘れて居たが襦袢の主――即ち病氣の女の氏名年齢等の質問を受けた時出鱈目に氏名は山口チヅ子當年二十二歳と答へて置いたのだ最初の時は山の奥から拗り出され如な田舎者裘で行つたのだが今日は背廣服仕立に茶の中折帽或所の福引に當つたロハの香水を振り撒いて高襟姿だ、「御免」と言葉も凛揚に「先日御祈禱を願つた襦袢を頂戴したい」と申し入れると、何か**妻君と巫山戯**て**居た和尚**少々面食つた体で「何か御用です」かと云ふ、僕は一つ事を二度云ふかいと云つた調子に默つて居る、スルト妻君が横から「れ名前は」と云ふ此れ〳〵ですと答へると「アー此の一日の日曜に入來しやいました方ですね」と云つたので和尚も思ひ出したか本堂の方へ隱れたと云はれる儘に本堂へ行くと和尚は襦袢を佛前から持ち下して來て僕に向つて「御病氣は御全快になりましたか」と尋ねる、此時僕は不平らしい顔をして「全快する所かアノ**れ砂を飲**せたら間もなく**腹痛を起し發熱**してウン〳〵唸るので醫士を三人迄立會つて貰つた、醫者さん達の云はるるには此れは何か不消化物を食べたに相違ないと云はれたから隱しも出來ず實は此れ〳〵て高野山のれ砂を呑せたと一伍一什を話すとスッカリ笑はれちやつた御祈禱は大に宜しいが**人間の胃袋には砂は不用**だ、鷄の胃袋ぢやあるまいし、況して病人に其樣物を呑まして若し死んだら何うする**君**と其の**和尚**さんとは**過失殺人犯**として取調べを受けなきやならない實に君は驚いた人だつて笑はれた上に威喝された、驚いて終つた」と一先づ句を斷る(つゞく)

●「時雨日記」荒筋

十一、十二の兩日壽座に於て上場される時雨日記の梗概を記して觀客の御參考に供し樣本筋はタジカ東京某新聞に連載されたものと記臆する、茲に野州那須原の豪商金井家の未亡人れとみは華族と自稱する某漢吉宮晴之に欺され娘たる君の許嫁なる塚本芳之助を離別し芳之助は自暴自棄の結果金井家の大金を拐帶して東京に出で豪遊を極めて居つたが不圖金井の息健作と出逢ふて一切の話をしたが健作は却つて同情し殘金を與へ渡英せしめた一方ママと金井家を横領した、吉宮は滯英中の情婦ルイズが其の一子トミーと共に尋ね來たが冷遇し爲めルイズは發狂して寺院の鐘樓で無慘な最後を遂げた一子のトミーは健作に依つて救はれた▲或日隅田附近に稀なる山火事起つて金井家の持山全部は灰塵に歸した、茲に健作を戀する小萬てふ藝妓がある、吉宮は其小萬に迷ひ我妻たれと迫まるが戀人健作に仇なす惡魔なりとて殺害なす茲へ芳之助は成功して歸朝し凶變に驚く金井の母子は始めて覺醒した、芳之助が土産として數萬圓を與へ金井家の再興を計つた、健作の媒介で芳之助は相思の仲なる千代香なる藝妓と一所になつた千代香の言葉で健作と小萬は手に手を取つたが健作は自斬する人のどうせなき命なればとて寺出度結婚なして別れんとて水盃として悲慘なる別れをする落花は再び梢に返らぬ娘のれ君は哀れなトミーは金井家に養育せられるといふ(大團圓)

